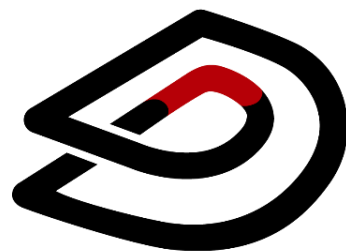


人を不幸にしないための、デジタルと



**デジタルプラス**

**2024年9月期 第2四半期  
決算説明資料**

当第2四半期は、前四半期に引き続き**四半期営業利益27百万円の黒字**となり、継続的な黒字化を達成  
通期業績予想に関しても営業利益▲102百万円から、営業利益+25百万円に上方修正を実施



## 全社第2四半期 営業黒字の継続

当Q営業利益 27百万円  
前Q営業利益 11百万円※1

前Qに引き続き営業黒字を達成  
継続的な収益の安定化

通期予想に対して、  
当初想定よりも非常に  
堅調な進捗状況



## 上方修正の実施 大幅な業績改善により 通期黒字化の見通し

期初営業利益予想 ▲102百万円  
修正営業利益予想 +25百万円

流通総額の伸びに比例  
し、安定的な収益構造  
の構築が進捗



## 流通総額 16四半期連続成長 前年同Q比1.51倍

当第2四半期流通 16.6億円※2  
前第2四半期流通 10.9億円

通期流通総額  
約70億のベースに成長



## フィンテックセグメント 粗利前年同Q比1.2倍

当第2四半期粗利 117百万円  
前第2四半期粗利 96百万円

流通総額拡大を優先し  
一時的に成長は鈍化。  
3Q以降、再び  
成長率向上の見込み

※1: マヒナ事業の取得対価の確定（PPA）に伴い遡及修正

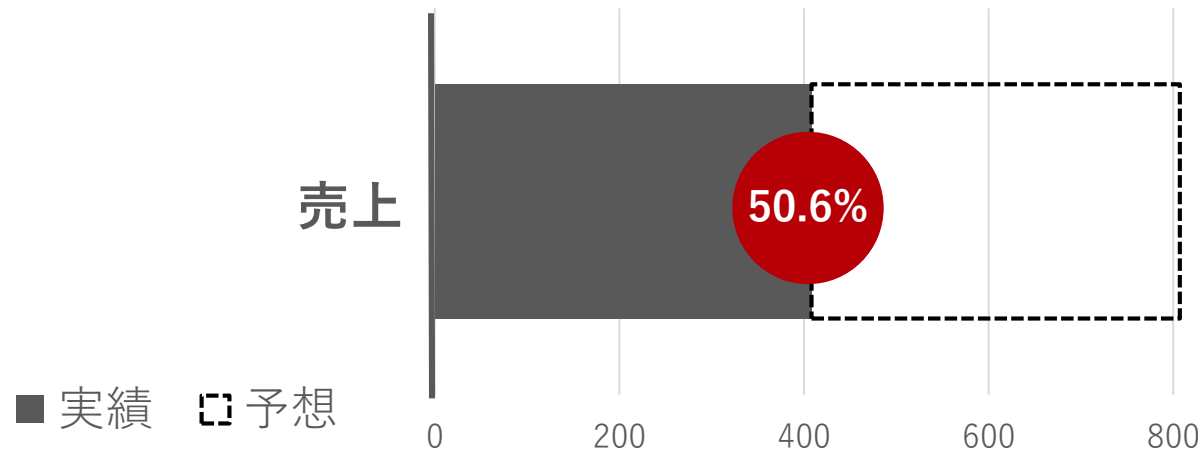
※2: 速報値と異なります

大幅な業績の改善、および販管費の適切な管理により**営業利益黒字化を継続**。  
 営業利益通期予想である▲102百万円が大幅に改善する見込みであるため、上方修正を実施

(単位：百万円)

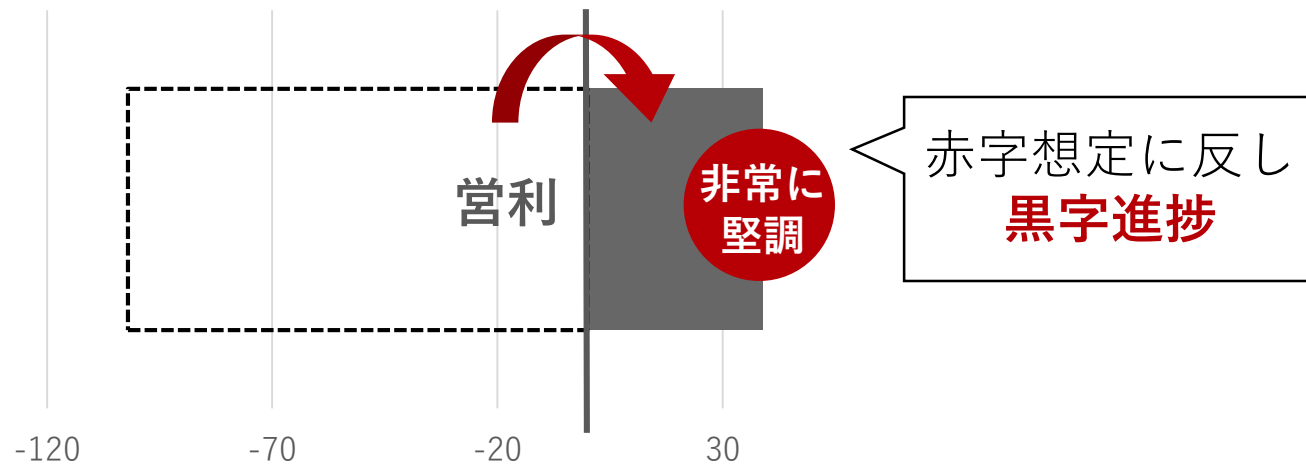
# 売上高

2Q累計  
実績 **408百万円**  
 通期予想 **807百万円**



# 営業利益

2Q累計  
実績 **39百万円**  
 修正前  
通期予想 **▲102百万円**



大幅な業績の改善、および販管費の適切な管理により**営業利益黒字化を継続**。  
期初営業利益通期予想である▲102百万円から通期**+25百万円へ上方修正**。  
なお、資金移動業対応費用等も勘案し上期累計の実績に対して慎重な数字としており、  
今後の事業進捗に応じて適宜見直しをする予定。

## 営業利益

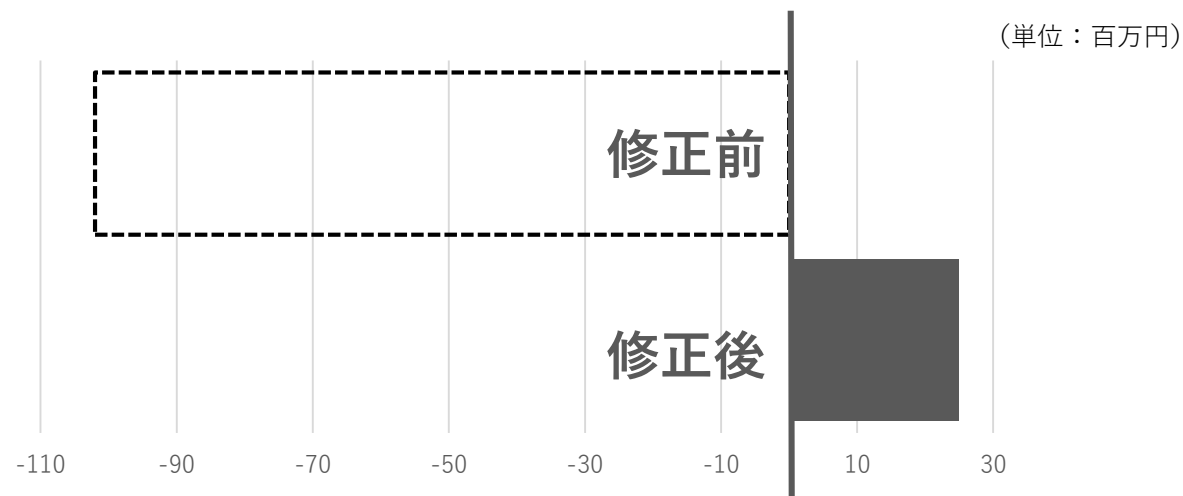
修正前

▲102百万円

修正後

**25百万円**  
**(+127百万円)**

通期黒字化の見通し



※売上高の修正はございません。

# 連結損益計算書（P/L）：2024年9月期 第2四半期決算概要（IFRS適用・会計期間）



当第2四半期会計期間は、売上・粗利ともに第1四半期と同水準で着地。

販管費の適切な管理により、**営業利益の黒字化継続を実現**。

単位：百万円	2024年9月期 第2四半期 (2024年1月～2024年3月)	2024年9月期 第1四半期 ※ (2023年10月～2023年12月)	前四半期比	2023年9月期 第2四半期※ (2023年1月～2023年3月)	前年同期比
売上収益	205	203	100%	194	105%
売上総利益	173	173	100%	167	103%
売上総利益率	84%	85%	▲1pt	86%	▲2pt
販売費及び 一般管理費	169	178※	94%	206※	82%
その他収益及び 費用	23	16	143%	0	—
営業利益	27	11	245%	▲38	—
四半期利益	9	36	25%	▲35	—
親会社の所有者に帰属する 当期利益	1	9	11%	▲38	—

## 当社考察

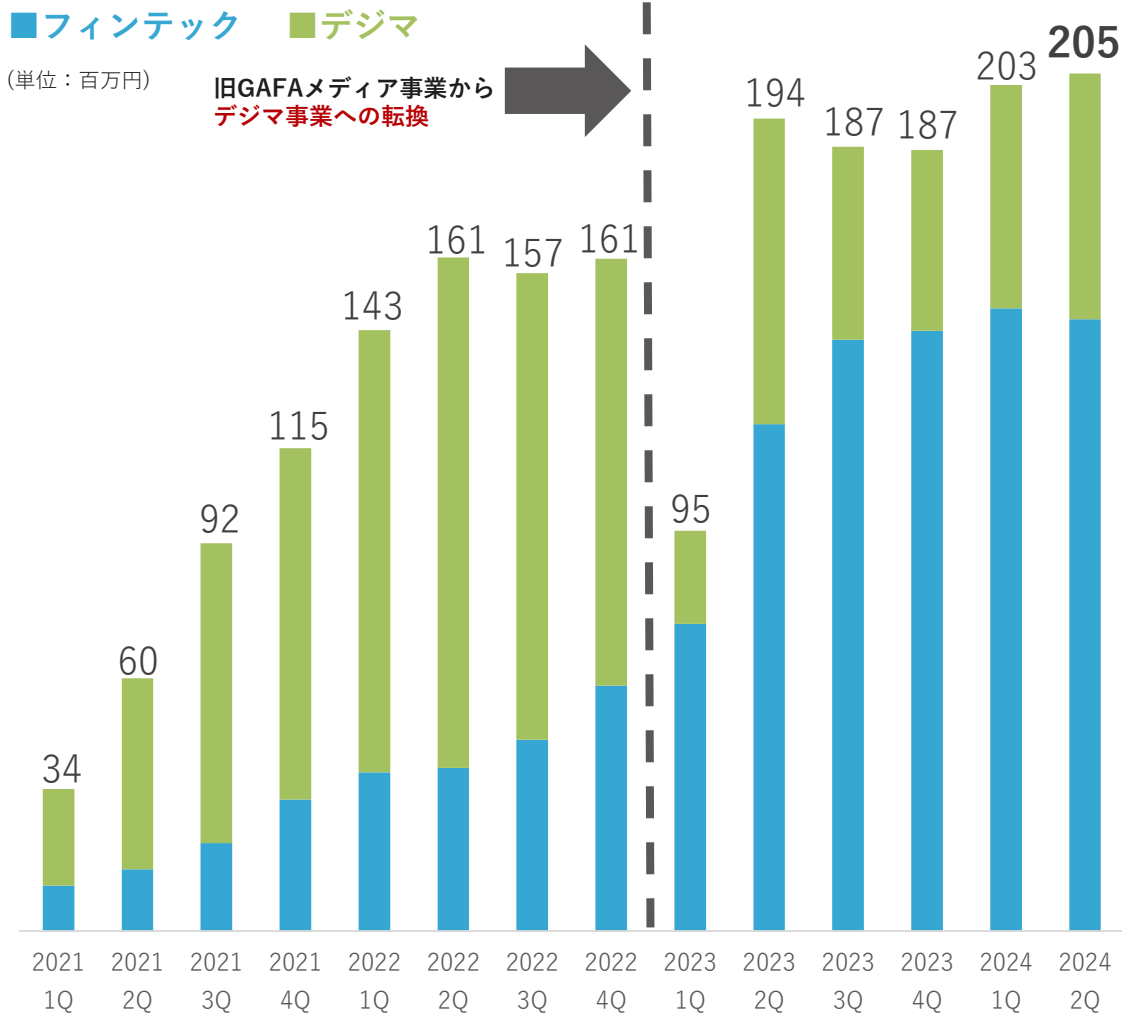
- 1 継続的な経費の見直しにより、前年同期比約20%の販管費削減を実現
- 2 従業員不正に伴う回収金13百万円を含む。但し、販管費及びその他費用には関連費用として7百万円を計上
- 3 **営業利益の黒字を維持**

※マヒナ事業の取得対価の確定（PPA）に伴い遡及修正

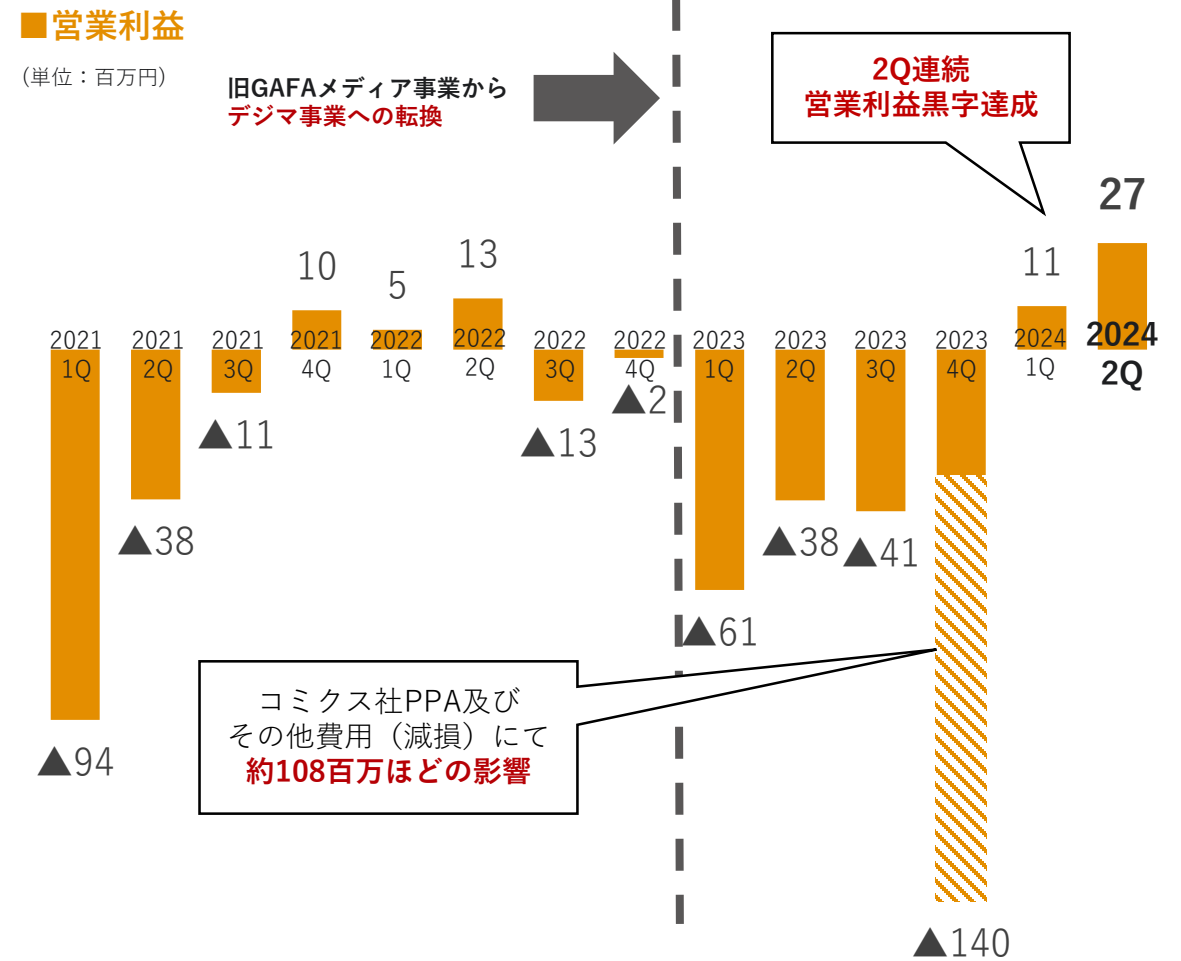
# 売上・営業利益 | 四半期毎の推移

第2四半期の売上高は、流通総額の拡大を優先し、大型案件受注のために一部ディスカウントを行った結果、フィンテック事業の売上高が若干の減少をしたものの、全体としては第1四半期と同様の水準で着地。

## フィンテック・デジマ・グロースの四半期売上推移



## 営業利益の四半期推移 ※



※マヒナ事業の取得対価の確定（PPA）に伴い遡及修正

(※) 2023 1QよりIFRS適用

# 連結貸借表 (B/S) (IFRS適用)

第三者割当増資の払込完了により、流動資産は第3四半期で増加。

第2四半期において四半期利益が9百万円となり、自己資本が更に改善。

単位：百万円	2024年9月期 第2四半期末 (2024年3月31日時点)	2024年9月期 第1四半期末※ (2023年12月31日時点)	前四半期	2023年9月期末※ (2023年9月30日時点)	前期末比
流動資産	<b>992</b>	1,141	86%	1,014	97%
現金及び 現金同等物	<b>360</b>	512	70%	444	81%
非流動資産	<b>652</b>	645	101%	673	96%
資産合計	<b>1,645</b>	1,787	92%	1,688	97%
流動負債	<b>864</b>	1,103	78%	983	87%
非流動負債	<b>230</b>	139	165%	178	129%
資本	<b>550</b>	544	101%	526	104%
負債及び 資本合計	<b>1,645</b>	1,787	92%	1,688	97%

## 当社考察

① 第三者割当増資の実行により現預金が、第3四半期に約1億円増加することにより、手元流動性は改善する見込み  
※着金は2024年4月8日

② 四半期利益9百万円の黒字化により、自己資本が改善

## 2024年9月期2Q 業績状況(前Q比較・前年同Q比較)



前Q比較では流通総額118%、売上97%の成長率で着地。前年同Q比ではセグメント利益約2.4倍成長

	当Q実績	前Q実績	前年同Q実績	前Q比	前年同Q比
流通総額	1,664百万円	1,403百万円	1,095百万円	118%	151%
売上高	146百万円	149百万円	121百万円	97%	120%
粗利	117百万円	119百万円	96百万円	98%	121%
販管費※	70百万円	69百万円	76百万円	101%	92%
セグメント利益	47百万円	50百万円	20百万円	94%	235%

※マヒナ事業の取得対価の確定（PPA）に伴い遡及修正



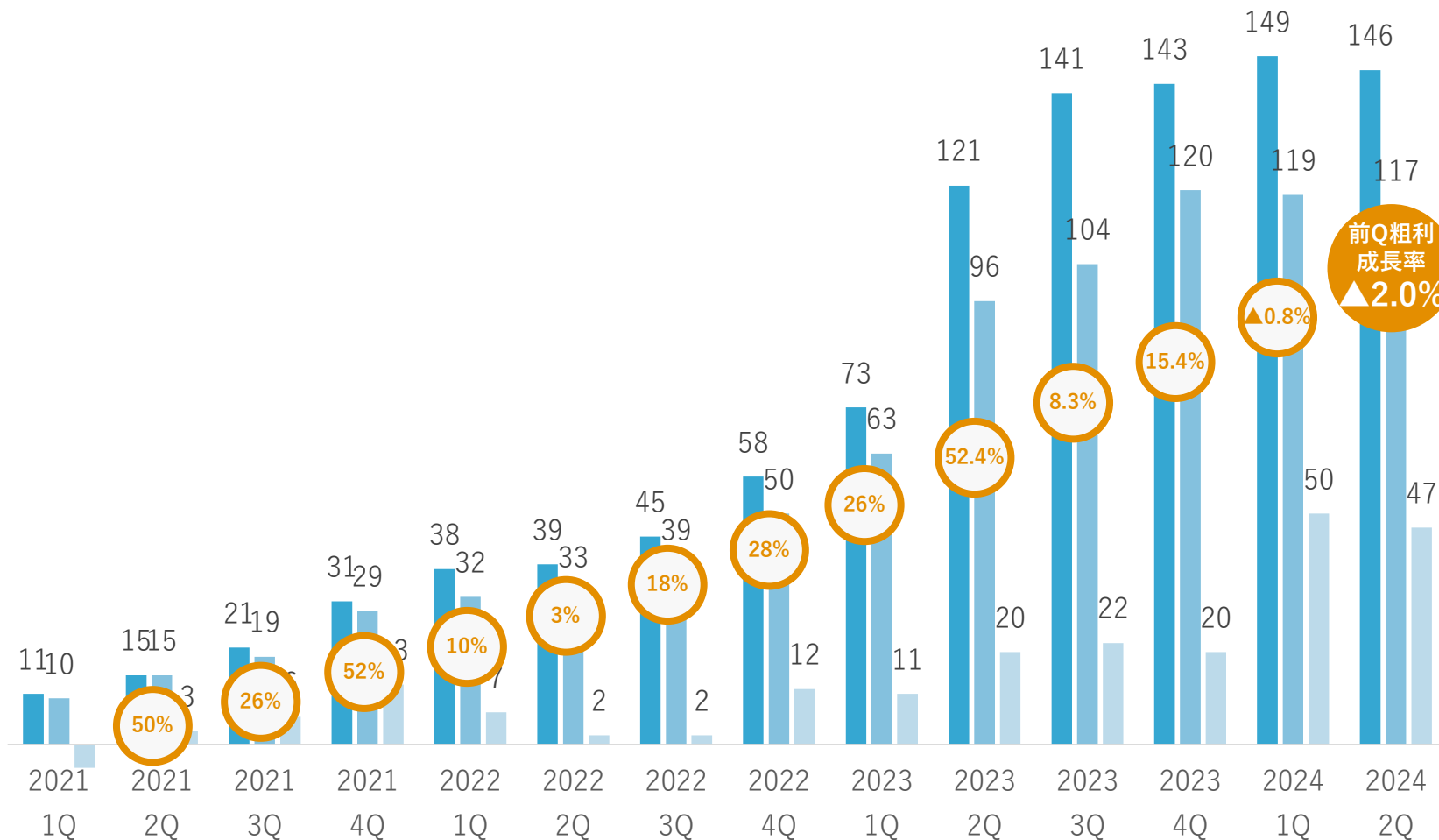
ディスカウント(1-2%)販促やサブスク収益減少の影響で一時的に流通粗利率が減少。

しかしながら堅調な流通成長を実現しており、3Q以降、売上・粗利ともに再度成長軌道へ

## フィンテック・セグメント

(単位：百万円)

■ 売上 ■ 粗利 ■ 利益



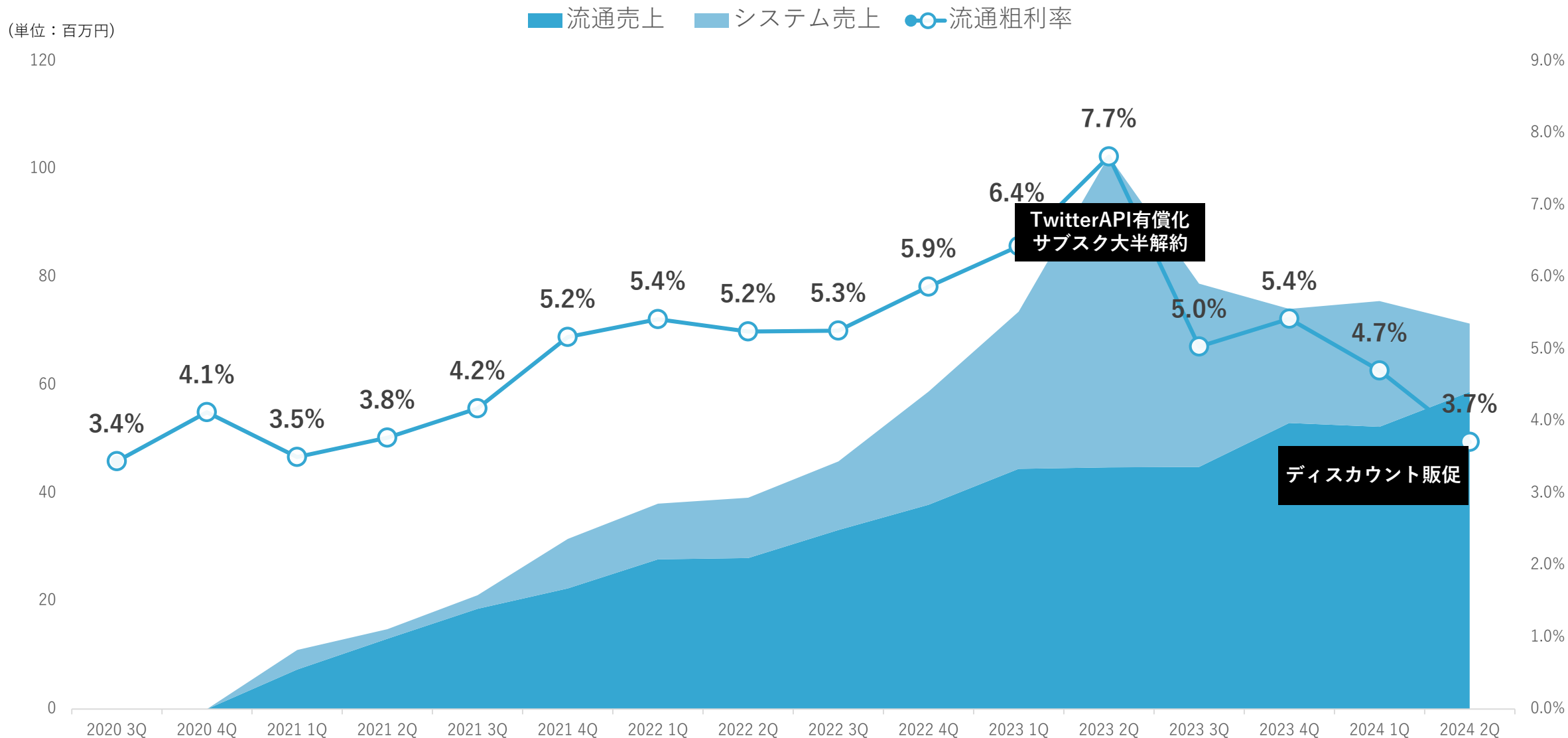
前年同四半期比  
2Q売上成長率 **118%**

前年同四半期比  
2Q粗利成長率 **120%**

2Q粗利率 **80%**  
流通総額拡大を優先した手数料割引施策による億単位の一括購入需要が増加

2Qセグメント利益率  
**32.1%**

2023年2Q Twitter API有償化に伴い、足元の利益ベースであったフィンテック事業のサブスクが大半解約  
 2023年4Qより流通総額拡大にフォーカスし、着実に流通利益を積み上げ、収益構造の安定化と高い成長軌道実現へ



セグメント利益前年同Q比118%(+7百万円)で着地。クライアント季節要因により2Qまでは予算増加  
また一部比較メディアが伸長したことで利益拡大

	当Q実績	前Q実績	前年同Q実績	前Q比	前年同Q比
売上高	58百万円	54百万円	73百万円	107%	79%
粗利	56百万円	53百万円	71百万円	105%	78%
販管費	27百万円	28百万円	46百万円	96%	58%
その他収益及び 費用(※)	16百万円	16百万円	16百万円	-	-
セグメント利益	45百万円	41百万円	38百万円	109%	118%

※:IFRS上、売上高の一部をその他収益として振替計上